再刻
天保

萬寶百人一首錦

改正頭書繪入

日本三夕の和歌　源氏歌
進物積様の図　婚礼式法指南
萬折形の図　女諸礼躾方
夢えん繪抄　男女相性名盡
裁ち方口傳　繪図
早染秘傳染糸　染れば
百人一首讀色紙五枚の秘歌の文
片假名　錦森堂藏

天智天皇
秋の田の
かりほの
庵の
苫を
あらみ
わが衣手は
露に濡れつつ

柿本人麿

山蔓赤人
田子の浦に
うち出でて
見れば
白妙の
富士の高嶺に
雪は降りつつ
猿丸太夫
奥山に
紅葉踏み
分け
鳴く
鹿の
声聞く
秋ハ
悲しき

中納言家持
かつぎ乃
つまさせる
ちりよ
を
君の
ちりきと
ゝゝべ
夜ぐ乃
安倍仲麿
天の
を
ゝゝべ
かすが
三笠の
山
月

玉模法師
我庵の
秋の
さつ
ちの秋
世紙つゞらを
人ちつなり
野町
花の
うちふ
ちなし
いづふ
我身
ちあつ
なごろ
せまふ

輝丸
三重やまの
おもも
ぜんも
ひろ
きそ
ハ
大阪
東坂の
浜
新羅
和田の
八十島
をく
ぐり
ぬ
出ぬ
と
今
ぞ
出ぬ
舟

偏正通眼
天津風
雲のかよひぢ
あれとぶよ
ひめのをづさ
たばねをぬる
陽成院
ふるさとの
軒のしのぶ
もとの
七草
こてふ
花ぞのの
蝶えや
春をしる
ちよ
ちよ
ちよ

河原左大臣
みちのくの
しのぶもじずり
誰ゆえに
乱れそめしか
我ならぬ
人ぞ知る
光孝天皇
君がため
春の野に
出て若菜
つむわれ
我衣手に
雪は降りつつ

文屋康秀
秋の風
大江千里
月見れば
ちぢに
たけ川の
一ぬれ
秋なれど

はしひめ
たなせさを
かげとたの
むるしき
ゆふるる
わげまき
ひとびこあ
むすび
さうびの
ひまつ
ひさご
かれ
ふの
三條右大臣
あ坂
の
さうび
うぐひす
もうる
十三

やどり木
わづまや
うきぬまの
かげろう
貞信公
小倉山
中納言兼輔

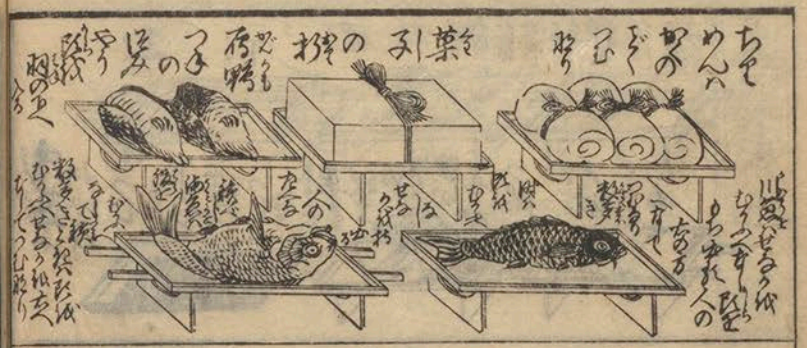
源宗平朝臣
九河内行恒

源氏物語新圖

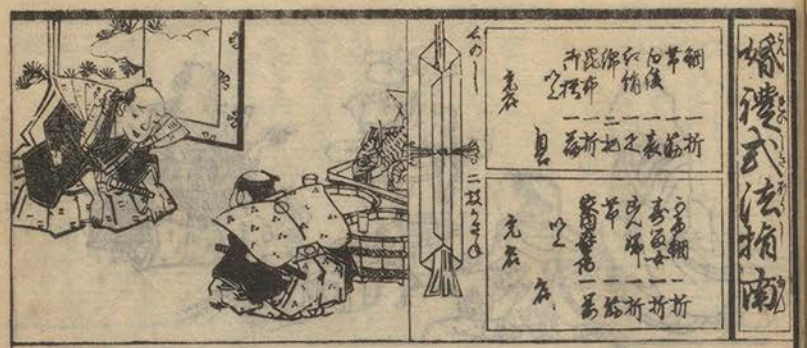
源氏物がたり紙書
為時ゞひとわ〳〵され
武ゐるの兎角ゝ妙ハ
摂津ゝ為信ゞ姫
村〳〵天ゝ第十ゝ姫
宮せん〳〵内親王義
のいつきはゝ不衛
そ為ゝそれめゞ〳〵
形ゝれ物がたりゝ
ゝのゝあゝのゝ〳〵ゝ
上東門院の手本紙

かうゝゝ武ゝ石山
てゝ不観ゝて観せ
音不祈誓し源氏
六十帖紙つくり
さゝわゞそゝまゝて
し形ゝちの物がたりハ
紫ゞの乃ゝ
ことゝゞゝ紙ゝ
水ゞ清ゝ不ゝひて
こゝろハ秋ゝ月者
千里の外ゝでも限
なゝろゞ

進上物積様之圖
縮羊羹
鯛
鯉
延紙
鶴節
上
下
鶴
春道列樹
心河内国の
かまくら
なごりも
おもかげ
ひりけり
紀友則
冬ごもり
ひろせの
あれ
春はあふ
しづくに
ぬれつゝ



紀貫之
人をいざなふ
ものは
さとりの
道ぞ
書ふ


婚礼式法指南

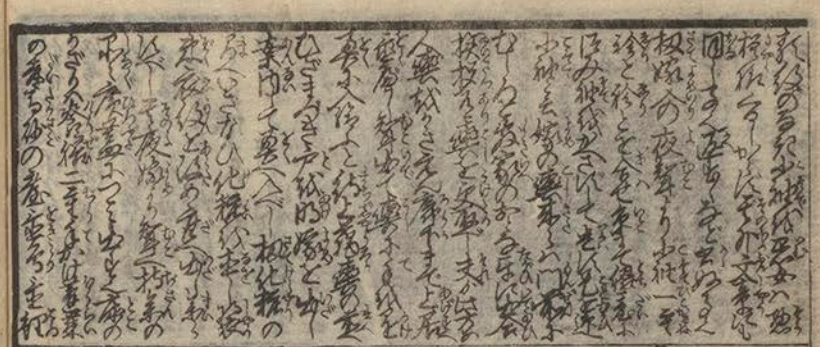
藤原深養父

夏の夜は
まだ宵なれど
明けぬると
雲のいづこに
月やどるらん

文屋朝康

白露に
風の吹しく
この頃の
秋の野原は
つらぬきとめぬ
玉もなりけり

参議等
あさぢが
をけの
うらの
ぬまとど
なまりてなどの
化粧き



右迦
ちひで
人の命の
おろかなる

平兼盛
たまづさと
たのもしく
宮
ゐる
我恋は
あやめも
人しれぬまで

壬生忠見
恋すてふ
わが名は
まだ
きそらふ
人しれぬ
恋ありぬ

清家元祖
ちごらの
きるか
みの
紬絨
しがつ
東のまつ山
なみこけとも

佛壽恵
ゆ
ひ見その
はちのん
ふ
ゝ
ぎ紬べ
ひ
ものを
ぬぐりゝ

中納言頼忠
中ふ人をも身をもうらみまじ
孫穂公
ものをもとめて
人を
身のうらみなりけるかな
紙折形の図
男てふ
いさのゝ
まのいさのゝ
女てふ
おび
まのけ色
なよさ
まばの
きぬた
くさむら
ホのまる
おけつ

ちゑひろ
わくぎ
やうじ
すみえび
くし
ゆかけ
こせうのこと
あふごつみ
中のあび
富士の山
人
宿

女諸礼ちゑあそび
高麗法師
八十年
宿
さびきふ
人をみぬ
秋を来ふり

源重之

大中臣輔親
沖の浦
清士の
夜の
ひるかき
ものを

義経
弓矢
おれ
義経
弓矢
おれ

命ぐ形
うきうの
市紙
かさなを
まぞハ
紙ハ
しじょ
ヨしを
儀間家

大納言殿
瀧も
そして
ハ
なり
ぬを
ど
程
石
仏
を
なぎて

一家内の井戸を掘れば
みれば
一井のそこの紙人形
一紙をもみもとめたる
一紙おのづからとけたる
一髪ゆつのまこあつを
みれば
一ちつ髪をもみ形
みれば
一紙をもみもとめたる
一紙をもみもとめたる
一太刀紙でくくりたる
一ちつ髪をもみ形
一かみをとりてみれば
一ちつ髪をもみ形
一紙をもみもとめたる
清水観音
坂の実ハ
はつるも
者ハ
ろくろ
ろくろ
紙をあて
清水観音
京童
今ちつ
おひさえ
なんと
ちつ紙
命ぢ
ゆ
この形

一ゆ〜〜ふ衣服どこーらへ[illegible]

一多[illegible]

一ゆ〜〜[illegible]

一ゆ〜〜[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

能因法師
あしたの
山の
ほとゝぎす
たれかきかん

三條院
こゝろもて
あらぬ
うたの
世ふ
ゆゑ
こしうるべき
秋にあはなん

良羅法師
けびしさふ
宿鉄
そち
出く
雕もだ
いづこも家
あれのゆ家
大納言経信
ゆへげもハ
門田の
いるで
抑ぐもく
あの
まもやふ
秋の穂ぞふく

一家ゆゝしきあるじとて
一書紙にしるしとゝめたる
一家ふるまひとゝのへ
一運あつまりとゝまるべき
一力とゝのへやとゝまる
一ちのつるきとゝまる
一かゝのぬるとゝまる
一ぬきとゝ
一紙に
一ものゝ
一ものゝ
一ものゝ

男女和ばらし

男 木性 循義本文
武蔵家房宿郷
矢波門拔色保
方豊峯波明蒼
布津灰浦麻石

男 大性 右久金根
光亀玉泰貢流
義紋今國賢泰
源琴恒雅石水
迎低高勅健元

男 土性 中通雲祝
女 剛道長為柳浪

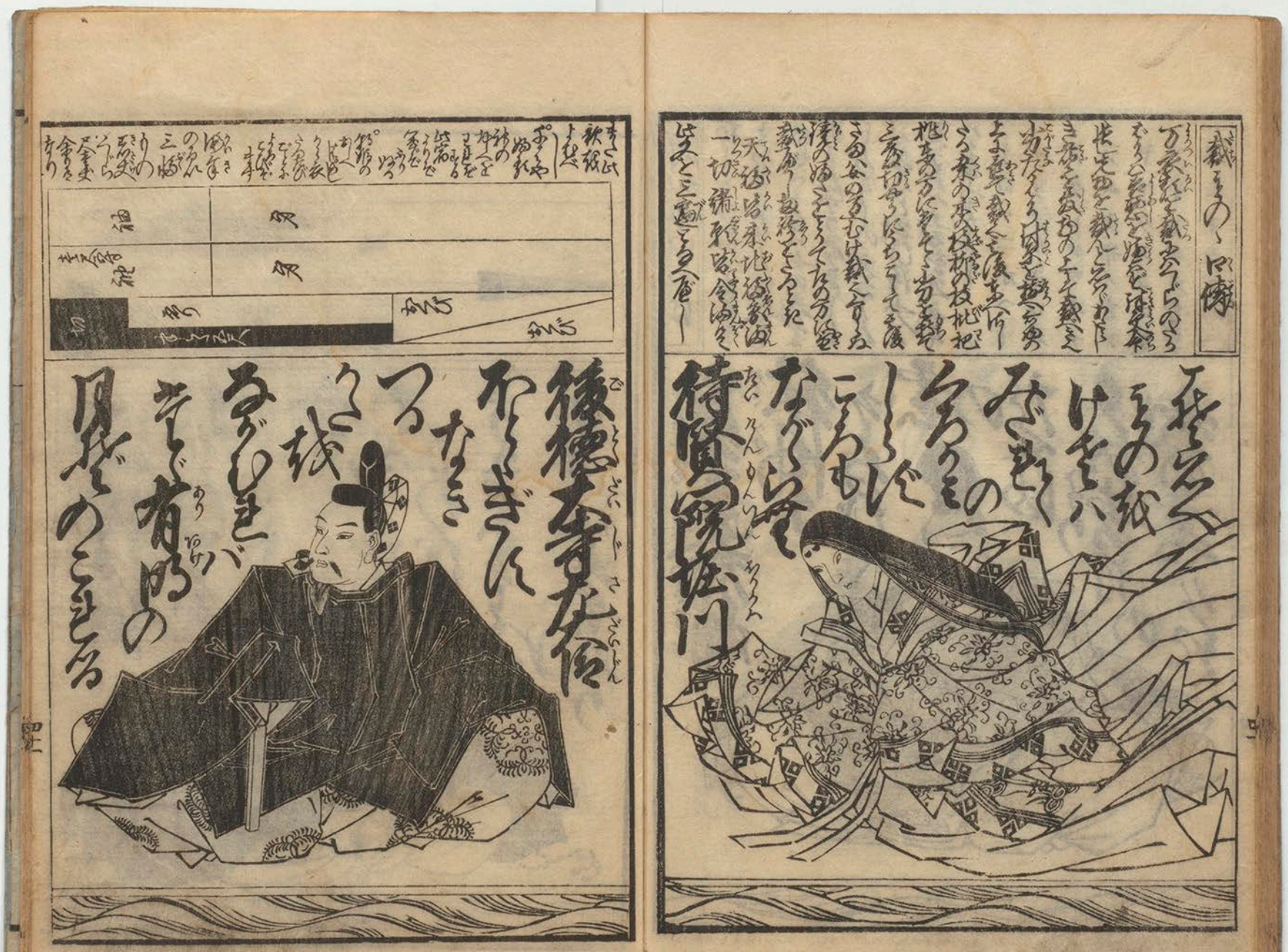
良知星波貞大
赤定竹秩恵訓
徒力林底孫蝶

男 金性 孝勇烟雄
女 紗竜林邑玉虎
嘩和死女能寅
為竜英泰紋益
乙逸悦一要咲

男 水性 正清以尚
女 泰陽周秀秋
暗市泥伝春慎
後千村仁淺新
昌陀容深新吉

法華経
和歌
いでいでいでい

源氏物語
ちどりの
なくあふ
いく秋
さらぬ
須磨の浦
紫式部
雲の
たえ間
より出る月の
新のさやけさ
イロハニホヘト
チリヌルヲワカ
ヨタレソツ子ナ
ラムウヰノオク
ヤマケフコエテ
アサキユメミシ
ヱヒモセス


義経の一代記
待賢門院堀川

道閑法師
たゝびつゝ
さくも
命ハ
ある
の紙
うきふせ
なごろ

さやの頼もそう
そちやうの図
蔡法師初
なぐさへハ
世ごろやさ
丑の
ゞ
ゞ
ゞ
今ハもひ
後恵法師
ゞ
ゞ
ゞ

西行法師

家隆法師

人こそ
沖の石
我袖ハ
二條院讃岐

孫命和尚
世中ハ
つねも
がる
清さで
あるべし舟の
はなぞなるも

百人一首繪図
秋の月

百人一首ひやくにんいっしゅ
天智天皇てんちてんのう
持統天皇じとうてんのう
喜撰法師きせんほうし
陽成院やうせいいん
文屋康秀ふんやのやすひで
在原民の業平ありはらのなりひら
坂上さかうのこれのり
深草の少将ふかくさのしょうしょう
文屋朝康ふんやのあさやす
赤染衛門あかぞめえもん
権中納言定家ごんちうなごんさだいへ
こぬ人を
まつほの
うら
藤原の
為家
ためいへ

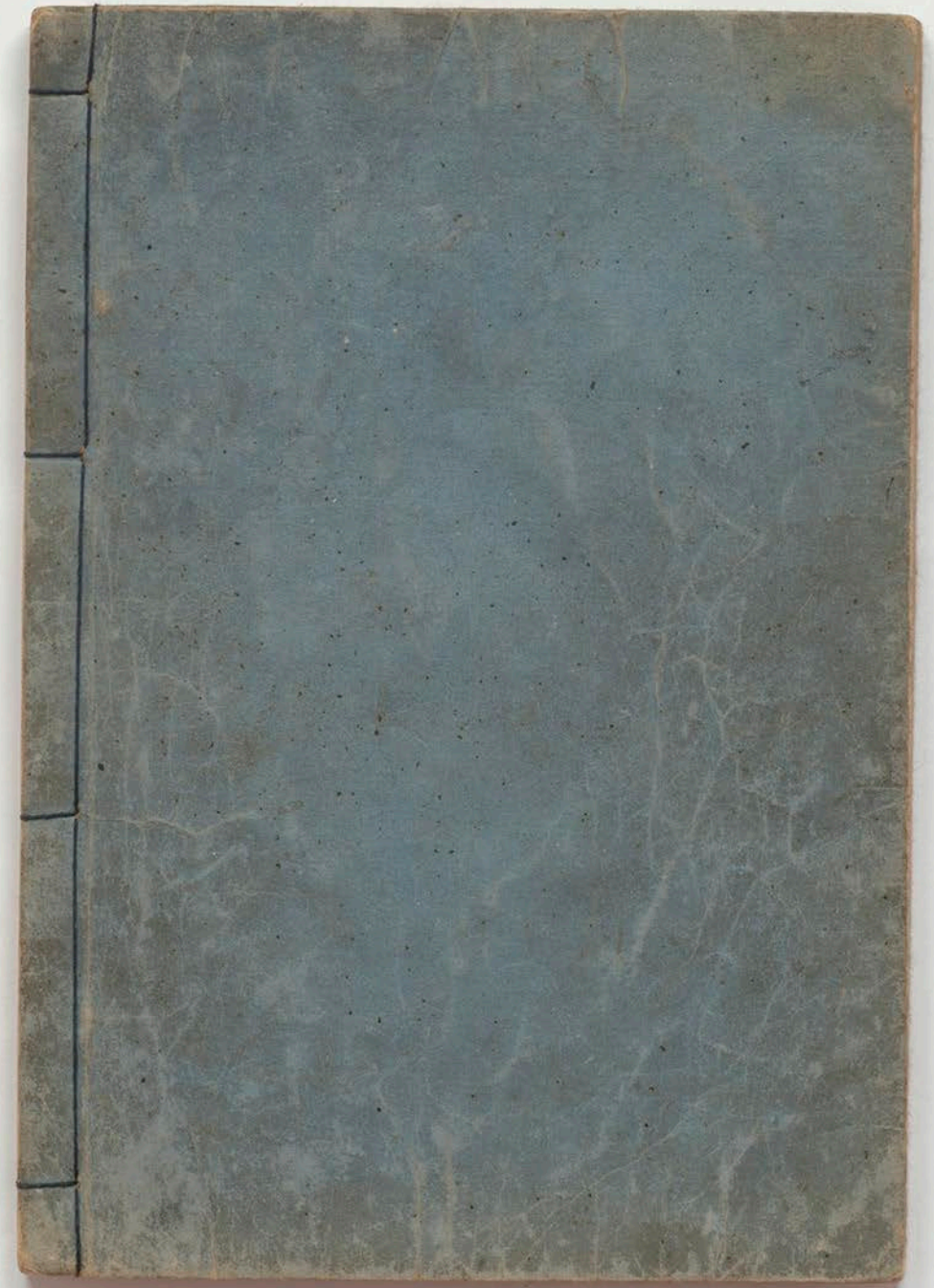
正二位家隆
風はやみ
小川
の
ゆどのへ
こゝにぞ
夏のあるなりけり
後鳥羽院
今
ひとゝ
うゝ
めり
あぢき
なく
世紙ゝ
ゆふ物あり

43962

新改御和言葉

一ふくろを　おりくちの
一おひと　ありとの
一夜ぎを　よるのゆめの
一りやと　かちやうの
一ぬのこを　おひえんの
一ワこを　あるくの
一ゆぐを　ゆりとの
一ちりを　むちきの
一紅粉を　おろくの
一あを　おひやの
一米を　うちまれの
一ゆりを　ぐどの
一さけを　ムくんの
一ちをを　ひりとの
一ごくちを　さぜんの

一せなをんを　こうとごの
一うちを　かちんの
一ちをんを　まれの
一がうちを　おそぎの
一ゆうさうちを　ゆうれいあんの
一うりがうちを　ムさけがんの
一ちんこを　ちうゆうの
一さびけんこを　ゆうけんの
一ちうめんを　ぐやの
一てんぐを　おでんの
一ちゆを　おそうとの
一とうゆを　おんべの

一ちうゆの子を　かうちの
一ぬんこを　ゆりとの
一ちうびを　ちうの
一たうんを　かくものの
一ごがうを　ぐんの
一ちゆのものを　うりとの
一ムきを　ムりとの
一さうがを　おすがの
一ちゆいを　おひとの
一ゆうりを　おれその
一たうを　たりとの
一ゆきぐひを　ゆうとんの

天保十一子年再板
東都馬喰町二丁目
地本屋　錦森堂　森屋治兵衛版